

「光学界の将来ビジョン」企画によせて



日本光学会の前身の光学懇話会が1952年4月1日に設立されてから、2022年4月で70周年を迎えます。これまでの70年を受け継いで未来を開く「継往開来」の年を記念して、「光学界の将来ビジョン」を企画しました。

本企画では、日本光学会を構成する17の研究グループおよび委員会に、これまでの動向を解説いただくとともに、学生会員や若手会員が光学の未来に期待を抱くような記事の執筆者をご推薦いただきました。ご執筆者の方には「これからを担う若手研究者の方に20年後、30年後の夢を自由に語っていただきたい」とお願いしました。読者の皆様には、本企画の記事が、研究グループや所属される会社などの将来計画を述べているものではない旨、ご理解をいただきたくお願いします。

さて、いただいた17の将来ビジョンは、日本光学会の活動の広がりや学術の深化を示すものとなりました。ここで構成について以下に記します。

前半では、将来の社会像に対する日本光学会の役割や研究分野ごとの注目動向と今後の展開について解説がなされます。例えば、コンテンポラリーオプティクス研究グループからは、男女共同参画に約30年前から取り組まれてきた『継往』が述べられ、多様な人々が臆さずに前に進む「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン」の『開来』について解説されます。また、生体医用光学、レーザーディスプレイ、X線・EUV結像光学研究グループなどの記事では、注目技術についての動向と今後の技術の深化について、専門外の読者にもわかりやすく解説がなされます。

後半では、将来ビジョンについてのインタビューや対談を掲載します。対談の形式により、将来に関する自由な意見を引き出していただいた記事です。学生に未来を語りかける文体でありながら、実は奥深い内容が記されています。フィジカル空間とサイバー空間が融合したSociety 5.0社会の実現にはリッチな情報通信基盤の整備が必須であり、光技術なくしては豊かな情報化社会は実現し得ないことなど、光通信の普及後に育った学生さんにとって特に多くの気づきが得られることと思います。

「光学界の将来ビジョン」を通じて、日本光学会のこれからの30年の発展を確信いただき、未来を共に想像し創造する仲間（会員）が増えることを願ってやみません。

企画担当（2021年度副編集委員長）

